

公益財団法人 国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

2025年4月



JINF

Japan Institute
for National Fundamentals

目 次

1 全 般	・ ・ ・ 3
2 各軍等	・ ・ ・ 4
3 対台湾動向	・ ・ ・ 6
4 対日動向	・ ・ ・ 7
5 南シナ海動向	・ ・ ・ 11
6 軍事交流	・ ・ ・ 14
参考文献	・ ・ ・ 19

中国軍事動向月報：2025 年 4 月

2025. 5. 9

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

1 全 般

4 月 1～2 日、東部戦区が台湾周辺における統合演習を実施した。昨年の統合演習と比較し、着実に海上封鎖訓練の範囲・練度を上昇させており、台湾に対する威嚇を強めている。

日本周辺では、台湾周辺での統合演習及び戦備警戒パトロールに参加した海空軍アセットや日米共同訓練等の情報収集に関連した情報収集・監視アセットの活動が多く確認された。

南シナ海においては、空母山東がフィリピン（以下、比）バブヤン島沖約 2 カリの海域を通過、中国海警が比が実効支配するパグアサ島近くのサンディ礁に上陸した。米比主催多国間共同訓練バリカタン 2025 に反発し、比への威嚇の烈度を上昇させたと言える。

軍事交流においては、ASEAN10 か国中 4 ケ国のベトナム（以下、越）・マレーシア・カンボジア・インドネシアと外務・国防・治安 3+3 または外務・国防 2+2 の実施または実施に合意し、安全保障面での協力強化を図った。中国は 4 月 8～9 日、周辺地域に関する活動方針を話し合う中央周辺工作会议を開催、「周辺運命共同体」の構築を強調しており、トランプ米政権の米国第一主義の政策に対し、まずは周辺国である ASEAN 各国との関係を強化し、自国陣営への取り込みを図り、かつ米軍との関係を深める比を ASEAN の中で孤立させる狙いがあると思われる。

また、ASEAN の中でもカンボジアにおいては、中国の支援で行われたリアム海軍基地の拡張工事完成式典が 5 日に行われ、同日、同基地内に中カンボジアリアム港共同保障訓練センターが発足した。工事完了後初めての外国艦艇として海上自衛隊艦艇が、事後、越海軍艦艇が寄港した。しかし、衛星画像等から確認すると日本及び越の艦艇は中国艦艇が接岸している栈橋とは別の埠頭に接岸していることが確認できる。同共同保障訓練センターには中国軍が常駐し、中国軍専用の地域が確保されていると見られ、中国の 2 番目の海外基地と言える。中国が同基地を利用し、ASEAN 各国への影響力拡大やタイ湾～マラッカ海峡におけるプレゼンス強化を企図している可能性がある。

2 各軍等

(1) 全 般

○ 高官人事

4月30日、第14期中国全国人民代表大会常務委員会第15回会議が閉幕し、昨年11月に「重大な規律違反」の疑いで調査を受けていた中央軍事委員会委員・苗華中央軍委政治工作部主任の全人代代表職解任を以下の通り発表した¹。

「中央軍委政治工作部軍人代表大会は苗華の第14期全国人民代表大会代表職務の罷免を決定」

○ 「中国人民解放軍『中華人民共和国薬品管理法』実施方法」公布

4月10日、「中国人民解放軍『中華人民共和国薬品管理法』実施方法」修正版が公布され、2025年6月1日から施行される。

同方法第9条では「軍は戦備薬品備蓄制度を実行する」と規定された²。

(2) 統合演習

4月1～2日、東部戦区が台湾周辺における統合演習及び模擬目標への実弾射撃を主体とする海峡雷霆-2025Aを実施した。昨年の統合演習と比較し、着実に海上封鎖訓練の範囲・練度を上昇させている。本演習に関する東部戦区報道官の発表は以下の通り（時間は中国時間）。

なお、演習の細部については、国家基本問題 HP「総合安全保障プロジェクト『海峡雷霆-2025A』20250425」参照

○ 4月1日、東部戦区は陸・海・空・ロケット軍等により台湾周辺で統合演習を開始
○ 艦艇・軍用機を多方向から台湾に指向し、海空戦備警備パトロール・総合支配権の奪取・対艦・対地打撃・要域及び海上交通路封鎖等を主に演練し、戦区の統合作戦実戦能力を検証
○ 本演習は台独分裂勢力への厳重な警告と有力な抑止であり、国家主権・統一を擁護する正当かつ必要な行動
(東部戦区報道官2025.0401.0730)

○ 4月2日、東部戦区は台湾海峡の中部・南部で「海峡雷霆-2025A」演習を実施
○ 識別調査・警告駆逐・阻止押収等を主に演練し、部隊の地域管理・統合封鎖・精密打撃能力を検証
(東部戦区報道官2025.0402.0800)

○ 4月2日、東部戦区陸軍は「海峡雷霆-2025A」演習計画により、東シナ海の関連海域で長距離火力実弾射撃演練を実施
○ 重要港湾、エネルギー施設等の模擬目標への精密打撃を実施し、予期の成果を獲得
(東部戦区報道官2025.0402.1009)

○ 4月2日、東部戦区山東空母編隊は、台湾東沖の海空域で海空兵力をもって艦載機協同・地域制空・対艦対地打撃等の演練を実施
○ 内線・外線の一体化・立体封鎖・諸軍兵種統合作戦能力を主に検証
(東部戦区報道官2025.0402.)

○ 4月1～2日、東部戦区は統合演習の各任務を達成、部隊の一体化統合作戦能力を全面的に検証した
○ 戦区部隊は常時高い警戒態勢を保持し、訓練戦備を強化し、断固として台湾独立分裂への全ての動きを挫く
(東部戦区報道官2025.0402.1905)

(3) ロケット軍

○ 軍事パレードの訓練開始

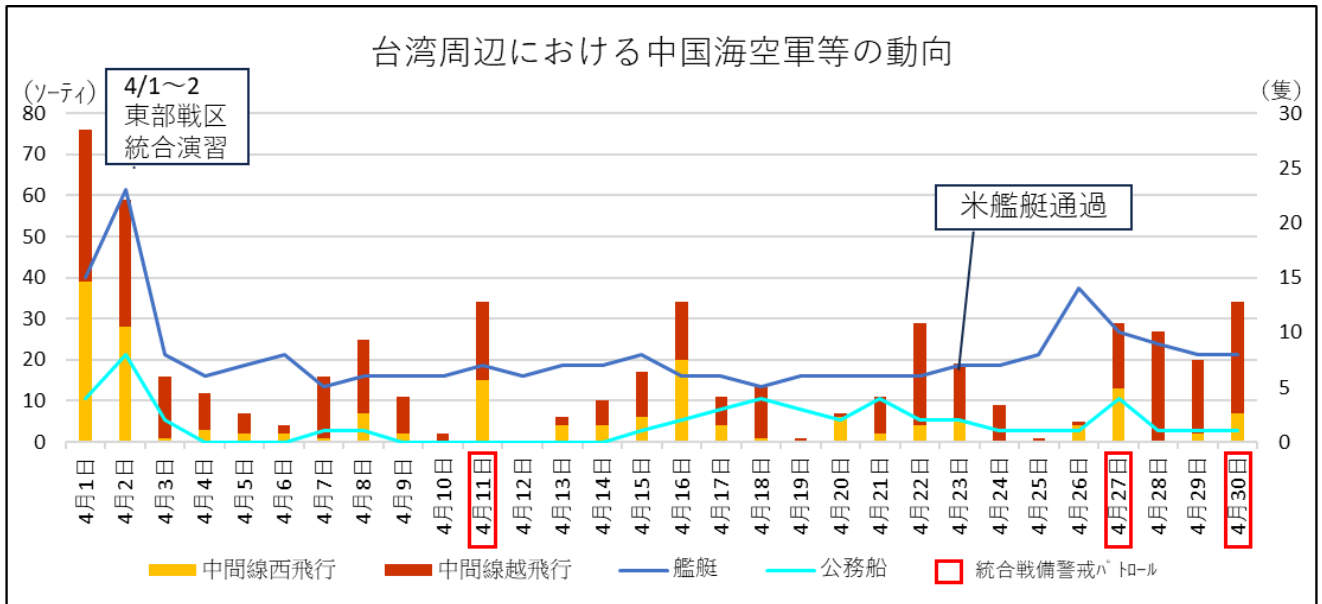
3月27日の衛星画像で、吉蘭泰のロケット軍訓練施設で弾道ミサイル TEL（輸送起立発射機）等が軍事パレード訓練を実施している状況が本年初めて確認された。また、4月5、8、13日の画像でも引き続き訓練の状況が確認された。（画像については著作権の関係で未掲載）

中国は本年を中国人民抗日戦争・世界反ファシスト戦争勝利80周年として大々的に喧伝しており、9月3日の抗日戦争勝利記念日に軍事パレードが開催される可能性がある。

3 対台湾動向

(1) 台湾周辺での軍の活動状況

○ 中華民国国防部発表による台湾周辺での中国海空軍の動向



（資料源：中華民国国防部 HP を基に作成）

4月には中国軍機延べソーター546（内、中間線超えが延べ364）、中国艦艇延べ237隻、公務船延べ49隻が確認。気球の飛行は確認されなかった。

1日における軍用機最大確認数は76ソーター、最大中間線超え37ソーター、海空統合戦備警戒パトロールは3回であった。

24日、東部戦区報道官は「23日に米ミサイル駆逐艦ローレンスが台湾海峡を通過し、喧伝。東部戦区は海空兵力を組織し、全行程を監視警戒し、法に基づいて適切に処置した」と発表³。

(2) 金門周辺海域での動向

台湾海巡署によると4月10・11・23日、中国海警4隻が金門周辺台湾制限水域への入域し、約2時間航行し出域した。

4月23日、海警東海分局報道官は「23日、福建海警が金門付近海域において法に基づき常態化法執行パトロールを実施した」と発表⁴。

【コメント】

統合演習があったため、昨年同時期に比し、活動は活発であった。

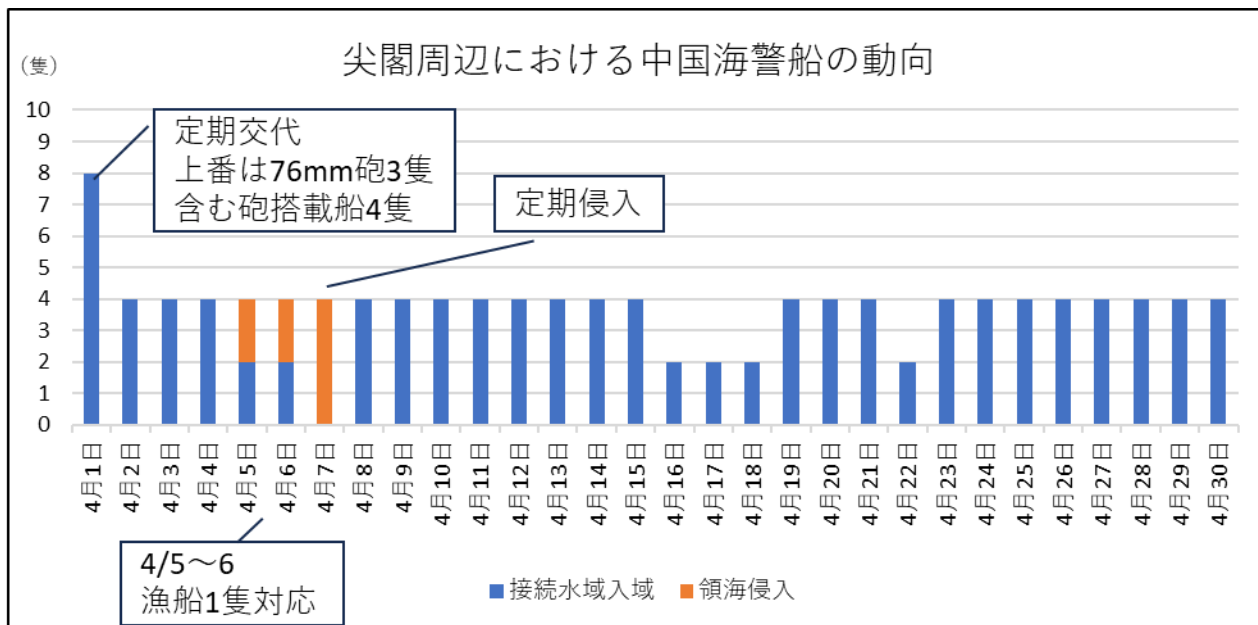
1～3月にかけて18～26機確認されていた気球が0となった。昨年も4月に1機と減少しており、5～10月まで未確認であった。訓練年度初めで軍用機の飛行数が少ない時期に、情報収集や台湾防空網の疲弊を目的として運用されている可能性がある。

金門周辺海域での中国海警によるパトロールは月に複数回、4隻で進入し2時間航行、というパターンで継続しており、4月も同様の活動が確認された。

4 対日動向

(1) 尖閣諸島周辺での活動状況

○ 海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向



(資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成)

4 月も砲搭載船 4 隻による活動を実施した。

定期交代は 1 日、定期侵入は 1 回、日本漁船 1 隻に 2 隻で対応と、特異な事象は確認できなかった。

中国海警局報道官は 6 日、「5～6 日、日本漁船“鶴丸”が我が釣魚島（注：原文ママ）領海に侵入し、中国海警が法にのっとり必要な管制措置を採り警告駆逐した」と発表⁵。

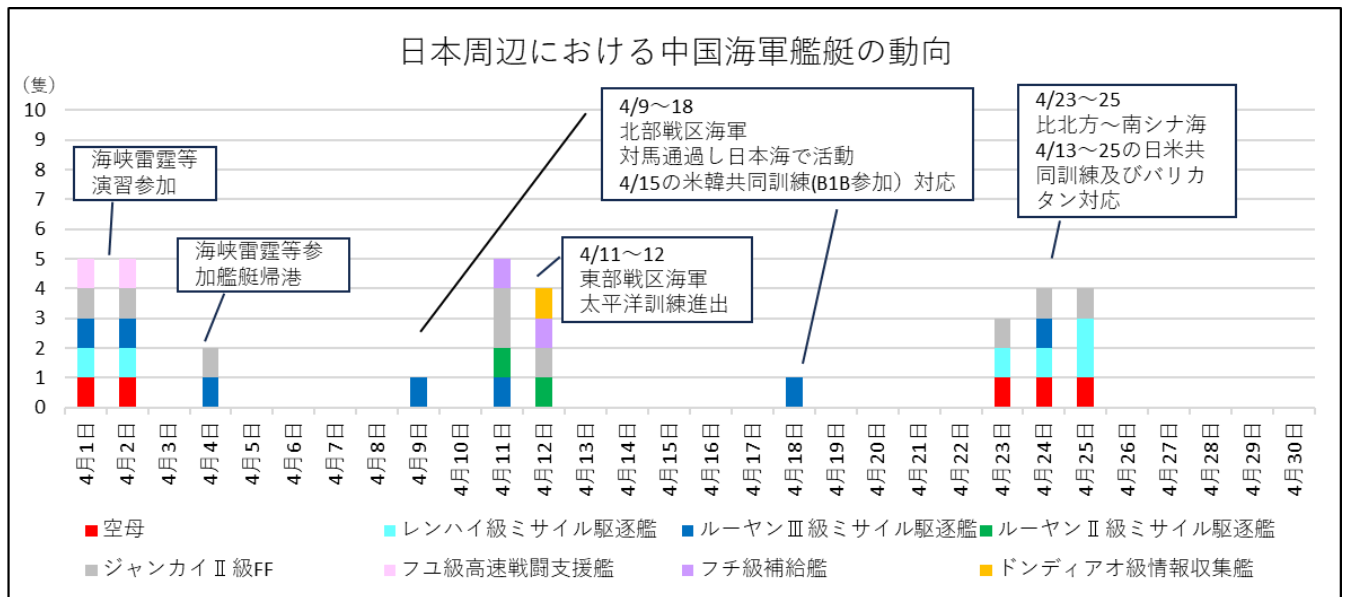
中国のAISサットによる日本漁船に対応する海警船2隻の位置



(出典：海洋装备与公务船资讯20250408)

(2) 日本周辺での軍の活動状況

○ 防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国海軍の動向



延べ 34 隻と活発な活動が確認された

東部戦区の統合訓練や日米等の演習への対応の他、戦区による遠海訓練も実施された。

また、空母山東編隊が 1～2 日の統合演習時に台湾東沖で戦闘機・ヘリの発着艦 70 回、23～25 日に同 130 回を実施した。（バリカタンについては「5 南シナ海動向」の項参照）

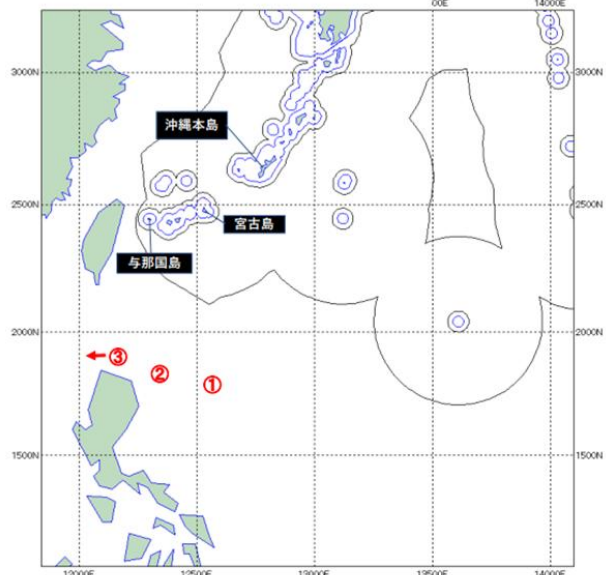
4/1～2 の山東編隊の位置



※ 中国海軍艦艇の航行を確認した位置

番号	日時
①	4 月 1 日（火）午後 8 時頃
②	2 日（水）午後 8 時頃

4/23～25 の山東編隊の位置

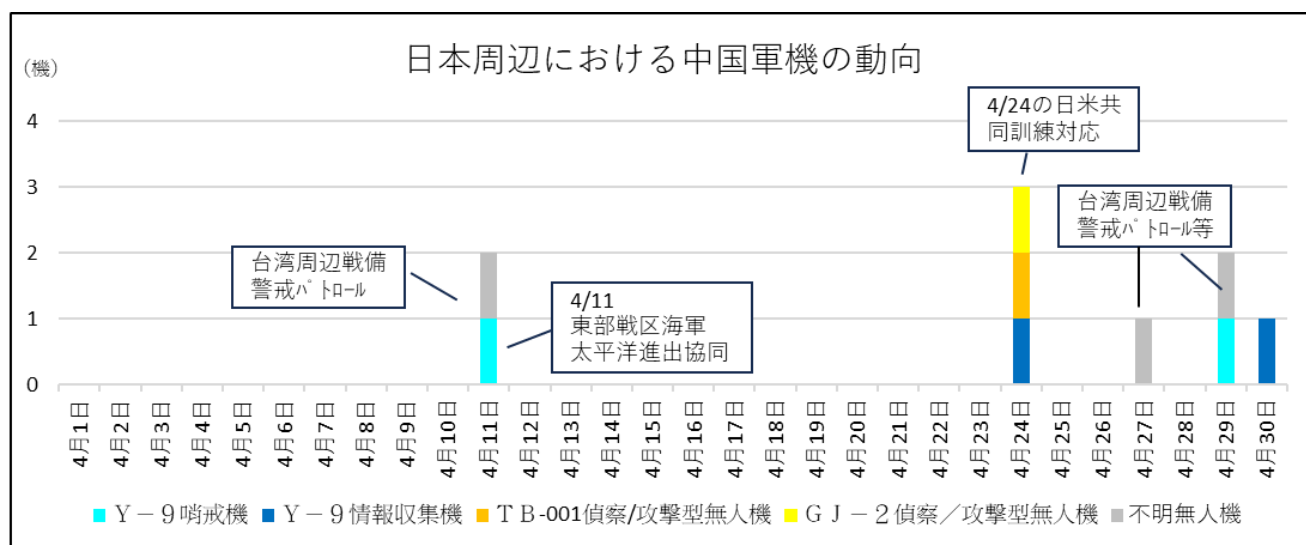


※ 中国海軍艦艇の航行を確認した位置

番号	日 時
①	4 月 23 日（水）午後 8 時頃
②	24 日（木）午後 8 時頃
③	25 日（金）午後 8 時頃

（出典：統合幕僚監部）

○ 防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国軍機の動向



(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

延べ9機の活動が確認された。

不明無人機3機は、台湾周辺での戦備警戒パトロール等で台湾を周回するような航跡で飛行した機体への対応であった。また29・30日は戦備警戒パトロール等で台湾周辺での中国軍機の活動が活発であったため、これに連携して哨戒機や情報収集機を南西諸島上空で飛行させた可能性もある。

24日、東シナ海から沖縄県南東方の西太平洋上の空域で日米共同訓練が実施され、米軍からB-1Bが参加した。B-1Bは、長距離爆撃を行うことができる超音速の重爆撃機で長距離爆撃機のタスクフォースの一環として4月から三沢基地にローテーション配備された。これに対する情報収集のため、情報収集機や偵察無人機を飛来させた可能性がある。

(3) 対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

○ 日本防衛予算が最高額を記録⁶ 解放軍報 20250410

日本の防衛予算は13年連続増額し、米軍との一体化を推進しており、アジア太平洋諸国は強く警戒すべきである。

○ キーンエッジでの中国軍揚陸艦へのミサイル発射シュミレーションについて⁷

国防部定例記者会見 20250416

日米軍事協力は第三国を対象とすべきでなく、地域の平和発展を害すべきでない中国は一貫して主張している。

○ 日本が国内で初の地対艦ミサイル試射⁸ 解放軍報 20250424

これまで米豪等で試射をしていたのを国内で実施するということは、自主化のレベルを上げ、軍事的正常化を図るためである。日本の攻撃的武器の導入には強く警戒すべきである。

○ 日本の外交青書や自衛隊の整備について⁹ 国防部定例記者会見 20250424

日本が中国脅威論を喧伝することに断固として反対する。地域を緊張させ、故意に対立を作り出すものだ。近年、日本は大幅に防衛予算を増額し、軍事力を増強していることはアジア隣国と国際社会の関心を集めるものだ。

○ 中国の無人機活動活発化に対する自衛隊の評価について⁹ 国防部定例記者会見 20250424

日本は完全に神経過敏になって騒ぎ立てている。誤解や誤判断による海空不測事態発生が両国関係の大局に影響を与えないよう、このような喧伝や中国の活動を監視妨害することを停止するよう要求する。

○ 日比 GSOMIA について⁹ 国防部定例記者会見 20250424

比の外国頼みはうまくいくはずがなく、域外国家が南シナ海問題に口をはさみ混乱を生じさせることは支持を得られない。

【コメント】

4月は「抗日戦争・反ファシスト戦争勝利80周年」への直接の言及は確認されなかったものの、日本の安全保障における取組について逐一反対の態度を表明しており、日本の同盟国・有志国と連携した取り組みを対中包囲網として警戒していることが窺える。

5 南シナ海動向

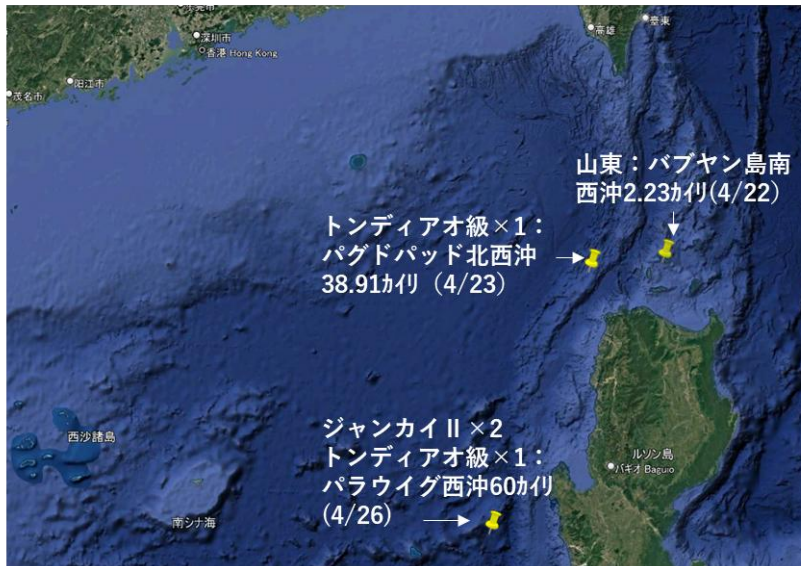
(1) 全般

○ バリカタン訓練海域近くでの海軍艦艇の航行

比海軍は、中国艦艇が4月27日に米比海軍共同演習バリカタンの訓練海域近くを航行したが、演習は支障なく実施されたと発表¹⁰。

公表された中国艦艇の位置等は以下の通り。

比海軍が公表した中国艦艇の位置



(資料源: Philippine News Agency20250424・0427を基に筆者が作成)

比海軍撮影の空母山東



(出典: Philippine News Agency20250424)

○ 南シナ海海域定期パトロール¹¹

4月30日、南部戦区が「南部戦区が南シナ海海域の定期パトロールを29日に実施。最近比が頻繁に海上での権利侵害・挑発を行い、紛糾を生起させ、域外国を引き込み所謂『共同パトロール』を実施している。」と発表。

○ 水中ドローンの設置¹²

4月15日、比海軍報道官は過去数年間に漁業関係者によって発見された水中ドローン5機について以下のように発表した。

- ◇ 2022～2024年に発見された5機の内、3機は比領海内で発見
- ◇ 内部部品の製造地から55～80%の確率で中国共産党によって設置と判断
- ◇ ドローンは水深・塩分濃度・水温・音波電波のデータ収集を重点的に行い、処理・保存し衛星通信により陸上基地・母艦・他のドローン等に送信

(2) 各礁での動向

○ スカボロー礁

- ◇ 南部戦区海軍の比海軍艦艇への対応¹³

南部戦区海軍報道官は4月20日、以下の通り発表。

「20日、比36号護衛艇（筆者注：砲搭載パトロール艇、BRP Apolinario Mabini, 舷号 PS36）が、中国政府の許可を得ずスカボロー礁領海内に侵入。南部戦区海軍は法に基づき、追跡監視し警告駆逐した。比が直ちに侵害・挑発を停止しなければ、生じる一切の結果は比が追うことになる」と警告する。」

- ◇ 中国海警の法執行パトロール¹⁴

海警は4月30日、以下の通り発表。

「30日、海警はスカボロー礁領海及び周辺海域で法執行パトロールを実施」

○ セカンドトーマス礁¹⁵

4月9日、海警局報道官が「4月9日、中国の許可を経て、比の民間船1隻がセカンドトーマス礁の不法座礁艦艇に生活物資を補給、中国海警は比船舶に確認し全行程を監視・管理した」と発表。

○ サンディ礁

- ◇ 中国海警の上陸¹⁶

4月中旬、中国海警の人員がサンディ礁に上陸し、パトロールを実施した。

サンディ礁で国旗を掲げ、パトロールする海警



(出典：環球網20250425)

各礁の位置



◇ 比海軍等の上陸

中国は 27 日、海警局報道官が「27 日、比人 6 名が中国の警告を顧みず不法にサンディ礁に上陸、中国海警は法に基づき、人員を上陸させ調査を実施した。」と発表¹⁷。

これに対し比軍は翌 28 日、「比海軍・沿岸警備隊・警察海上治安部門から成るパグアサ統合タスクチームの人員が 27 日、パグアサ礁 1～4（筆者注：比が実効支配するパグアサ島、英語名 Thitu Island 近傍に位置する礁であり、サンディ礁を比はパグアサ礁 2 と呼称）でパトロールを実施し、比の領域内で国旗を掲げた」と発表¹⁸。

サンディ礁で国旗を掲げるフィリピン軍等



（出典：比軍HP20250428）

【コメント】

米比主催多国間共同訓練バリカタン 2025 が 4 月 21 日～5 月 9 日まで開催、米・比・日・豪が訓練に参加したほか、16 か国がオブザーバーを派遣した。日本は 2012 年からオブザーバーとして参加していたところ、今回初めて艦艇等の装備品を派遣し、4 月 4 日～5 月 9 日の間、参加した。

比の報道によると、ハワイの第 3 海兵沿岸連隊が昨年配備されたばかりの海軍海兵隊遠征船舶阻止システム「NMESIS」を 26 日バシー海峡近くのバタン島に配備した。NMESIS のフィリピン展開は初。

同システムは射程 180～200 km（最新のミサイルは 250km との報道あり）、ヘリによるスリングも可能で高い機動性を誇る。

中国は、米軍が比に展開し第 1 列島線における中国軍の活動を阻害する事及び米・比・日・豪が共同しての南シナ海へ関与する事を強く警戒している。空母山東が比バブヤン島沖約 2 カ所の海域を通過したことや海警が比が実効支配するパグアサ島近く of サンディ礁に上陸したことは、バリカタンに反発し、比への威嚇の烈度を上昇させたと言える。

6 軍事交流

(1) カンボジア

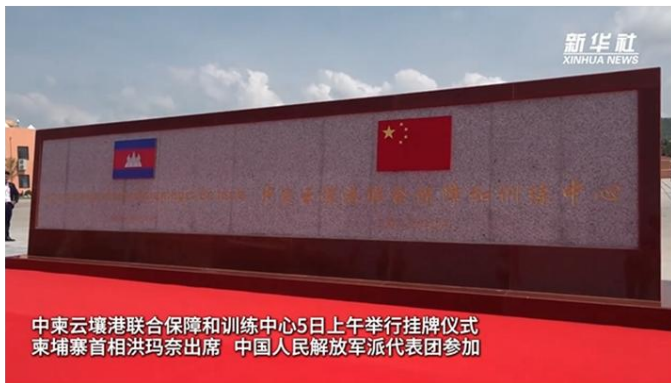
○ 中国カンボジアリアム港共同保障訓練センターの発足¹⁹

同センターにつき4月5日、国防部は以下のように発表。

「4月5日、カンボジアリアム港共同保障訓練センターが正式に発足。両軍の地域の対テロ・災害対応・人道支援・共同訓練等の支援に使用され、両国が必要な人員を駐在させセンターの運営に共同であたる。センターの建設と使用は中・カンボジア両国の相互尊重・平等協力の成果であり、両国の国内法や関連の国際法・国際慣習に合致し、いかなる第三国を対象としたものではなく、両軍の実務協力緊密化と国際義務の履行と国際公共安全の提供に役立つ。」

同訓練センターの発足式にはフン・マネット・カンボジア首相、中国軍代表団が参加した。

中国カンボジアリアム港共同保障訓練センター発足式時のセンターの状況



(出典：新華網20250405)

○ 「金龍-2025」共同演習²⁰

4月5日、中カンボジア両軍は発足したばかりのリアム港統合保障訓練センターにおいて「金龍-2025」共同演習を開始、両軍の艦艇が編隊機動・海上通信・装備操作等の訓練を行った。

○ 習近平国家主席のカンボジア公式訪問²¹

4月17～18日、習近平国家主席がカンボジアを公式訪問し、「新時代の全天候型中国カンボジア運命共同体構築と三大グローバル提議に関する中国人民共和国とカンボジア王国の共同声明」を発表した。

同声明における軍事関連事項は以下の通り。

- ◇ 中・カンボジア外務・国防2+2大臣級戦略対話メカニズムの設立を決定
- ◇ 両軍の協力メカニズムを十分に発揮し、各級交流を維持し、教育訓練・共同演習・医療・装備技術等の分野での協力を深化させ、安全保障多分野での協調を強化する。
- ◇ カンボジアは中国の、中カンボジアリアム港共同保障訓練センターの安定的な運営への協力と、カンボジアの国家主権擁護・安全保障・発展に関する能力向上への支援への支持を高く評価する。

(2) 越

○ 習近平国家主席の越公式訪問²²

4月14～15日、習近平国家主席が越を公式訪問し、「全面的戦略協力パートナーシップの継続深化、戦略的意義を有する中越運命共同体の構築加速に関する中华人民共和国とベトナム社会主義共和国共同声明」を発表した。

同声明における軍事関連事項は以下の通り。

- ◇ 政治・安全保障協力を深化させ、中越外務・国防・治安 3+3 対話メカニズムを閣僚級にし、適宜の時期に閣僚級初会合を開催する。
- ◇ 双方は、両軍間のハイレベルおよび各級の交流を強化し、国境防衛友好交流活動、国防安全保障協議などのメカニズムの役割を十分に発揮させ、両軍の政治工作、人材育成、戦略研究、共同研究などの分野での交流と協力を強化し、国防産業・艦艇相互訪問、共同演習での協力を強化し、医療、国連平和維持活動、非伝統的安全保障分野での協力を継続的に強化することで合意。国境防衛協力を深め、国境管理における調整と協力を強化し、陸上国境での共同パトロールを実施し、両国の国境警備部隊の友好関係の構築を奨励する。国境地域における友好交流を強化する。トンキン湾共同パトロールメカニズムの役割を発揮し、同湾での共同パトロールを推進し、両国の海軍と海警部隊の協力と交流のメカニズムを深める。
- ◇ 南シナ海に関し、コンセンサスに基づき、実効的かつ実質的な「南シナ海行動規範」の早期締結等で合意

○ 中越国境国防友好交流活動

4月11～17日、第9回越国境国防友好交流活動が広西壮族自治区と越ランソン省で開催²³。

16～17日には董軍・中国防相とファン・越国防相が共同で活動を主催し、会談を行った²⁴。

両軍国防相



トンキン湾共同パトロール艦艇のリモート視察



(出典：軍事報道20250417)

○ 中越トンキン湾共同パトロール²⁵

4月16～17日、中越両海軍は第38回トンキン湾共同パトロールを実施。

中越それぞれ2隻の艦艇が参加し、共同訓練をしつつ、200カワりのパトロールを実施した。

○ 儀仗隊の越南方解放50周年記念式典への参加²⁶

4月30日、ホーチミン市で開催された越南方解放50周年記念式典において中国人民解放軍儀仗大隊がパレードを行った。儀仗大隊の越行事参加は初めて。

(3) マレーシア

○ 習近平国家主席のマレーシア公式訪問²⁷

4月15～17日、習近平国家主席がマレーシアを公式訪問し、「高水準の戦略的中国マレーシア運命共同体構築に関する中华人民共和国とマレーシアの共同声明」を発表した。

同声明における軍事関連事項は以下の通り。

- ◇ 中・マレーシア外務・国防 2+2 対話メカニズムの設立に同意
- ◇ 更に国家安全保障・防衛・法執行協力メカニズムを更に整備し、共同演習・相互訪問・人材育成等の交流を進展させることに合意
- ◇ 南シナ海の平和と安定に関し、直接関係のない当事者の関与は逆効果になる可能性があることや 2026 年までに実効的かつ実質的な「南シナ海行動規範」の締結を推進する等で合意

(4) インドネシア

○ 中・インドネシア外交防衛 2+2 対話メカニズム大臣級会合²⁸

4月21日、北京にて中インドネシア外務・国防 2+2 対話メカニズム大臣級の初会合が開催。

中国から王毅外相、董軍国防相が、インドネシアからスギオノ外相とシャフリ国防相がそれぞれ出席した。

両国は南シナ海の平和と安定を共同で維持することに合意し、海警部門が海上安全保障協力協定に署名した。また、南シナ海行動宣言の完全かつ効果的な実施と、南シナ海行動規範に関する協議の加速化への努力を改めて表明した。

○ インドネシア国防相との会見等²⁹

4月22日、訪中したインドネシアのシャリフ国防相が中央軍事委員会副主席張又俠と会見、また昨日に引き続き、董軍国防相とも会談した。

シャリフ国防相は、インドネシアは一国主義に反対し、中国と共に 2 国間・多国間協力を強化し、更に両軍関係を強化したい旨発言した。

(5) その他の国

○ 米中海上軍事安全協議メカニズム作業部会³⁰

4月2～3日、米中海上軍事安全協議メカニズム作業部会を上海で開催。「米中海空遭遇安全行動準則」の実施状況を評価し、海上軍事安全保障問題の改善のための措置を討議

中国側は、艦艇・軍用機の安全は国家安全保障と切り離せないものであり、米艦艇・軍用機の中国沿岸の海空域での偵察、測量、高強度訓練活動は誤解や誤判断を招く可能性が非常に高く、中国の主権と軍事的安全を危険にさらす。これらに対しては、中国軍は引き続き、法に基づきあらゆる危険な挑発行為に対応し、国家の領土主権と海洋権益を断固として擁護する、と指摘した。

○ パキスタン空軍参謀長との会見³¹

4月8日、董軍国防相は訪中したババール空軍参謀長と北京で会見した。董軍国防相は、中パ両国は激動する国際情勢の試練の中で鉄のように強い友情を築き上げた、と両国の絆を確認した。

○ 中英参謀長会談³²

4月9日、劉振立・統合参謀長は訪中したラダキン英国国防参謀総長と会談。双方は両軍関係や共通の関心事等について意見交換し、両軍の交流協力を強化し、意思疎通を図った。

英国防参謀総長の訪中は2015年以来10年ぶり。

○ 中エジプト空軍共同訓練「文明の鷹-2025」³³

4月中旬から5月上旬にかけ、中エジプト空軍共同訓練「文明の鷹-2025」をエジプトにて実施。両軍空軍としては初の共同訓練。両軍から戦闘機・早期警戒機・空中給油機・ヘリが参加。

中国軍は約6000kmの距離を数か国を経由し移動し、15日に全機がエジプトにと到着。

19日の訓練初日にはエジプトの某空軍基地（筆者注：ワディ・アブリッシュ基地）で、J-10、Y-20空中給油機がエジプト軍のMig-29と訓練を行った。

両軍記念撮影



中国のJ-10,KJ-500とエジプトのMig-29



(出典：国防部網20250420)

【コメント】

4月に中国とASEAN加盟国の間で軍事に関し、以下のような合意等がなされた。

- ◇ 越：外務・国防・治安 3+3 対話メカニズムを閣僚級にし、適宜の時期に閣僚級初会合を開催で合意
- ◇ カンボジア：外務・国防 2+2 大臣級戦略対話メカニズムの設立を決定
- ◇ マレーシア：外務・国防 2+2 対話メカニズムの設立に合意
- ◇ インドネシア：外務・国防 2+2 対話メカニズム大臣級の初会合を 21 日に北京で開催

中国は 4 月 8～9 日、周辺地域に関する活動方針を話し合う中央周辺工作会議を開催、習近平以下党中央政治局常務委員全員と韓正国家副主席が出席した。同会議で習近平は重要演説を行い、「周辺運命共同体」の構築に焦点を当てなければならないと強調した。

トランプ米政権の米国第一主義の政策に対し、まずは周辺国である ASEAN 各国との関係を外務・国防共に戦略的に強化し、自国陣営への取り込みを図りたいとの企図であろう。更には、米軍との関係を深める比を ASEAN の中で孤立させる狙いもあると思われる。

カンボジアにおいては、中国の支援で行われたリアム海軍基地の拡張工事完成式典が 5 日に行われ、同日、同基地内に中カンボジアリアム港共同保障訓練センターが発足した。工事完了後初めての外国艦艇として海上自衛隊の掃海母艦『ぶんど』と掃海艦『えたじま』が 19 日にリアムに寄港し、28 日には越海軍艦艇が寄港した。しかし、19 日の TV 報道及び 28 日の衛星画像から確認すると日本及び越の艦艇は中国艦艇が接岸している栈橋とは別の埠頭に接岸していることが確認できる。同共同保障訓練センターには中国軍が常駐し、中国軍専用の地域が確保されていると見られ、中国の 2 番目の海外基地と言える。中国が同基地を利用し、ASEAN 各国への影響力拡大やタイ湾～マラッカ海峡におけるプレゼンス強化を企図している可能性がある。

【参考文献】

- 1 中国人代網 20250430
http://www.npc.gov.cn/npc/c2/c30834/202504/t20250430_445071.html
- 2 国防部網 20250410
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16379879.html>
- 3 中国軍網 20250424
http://www.81.cn/yw_208727/16382591.html
- 4 中国海警局 20250423
https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202504/t20250423_2697.html
- 5 中国海警局 20250406
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202504/t20250406_2648.html
- 6 解放軍報 20250410
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250410/e8e739efec9e50c0e6368ae2b777ded2.pdf>
- 7 国防部網 20250416
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16380957.html>
- 8 解放軍報 20250424
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250424/e3fa0c7b4628c70c9c4ca159935ee140.pdf>
- 9 中国軍網 20250424
http://www.81.cn/yw_208727/16382734.html
- 10 Philippine News Agency 20250427
<https://www.pna.gov.ph/articles/1248839>
- 11 国防部網 20250430
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16383587.html>
- 12 Philippine news agency 20250415
<https://www.pna.gov.ph/articles/1248152>
- 13 国防部網 20250420
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16381725.html>
- 14 中国海警局 20250430
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202504/t20250430_2718.html
- 15 中国海警局 20250409
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202504/t20250409_2653.html
- 16 環球網 20250425
<https://mil.huanqiu.com/article/4MQ681Zx1De>
- 17 中国海警局 20250427
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202504/t20250427_2712.html

- 18 Armed Forces of the Philippines20250428
<https://www.afp.mil.ph/news/pag-asa-cays-are-ours-government-forces-raise-philippine-flag-in-ph-territory>
- 19 国防部網 20250405
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/jswj/16379009.html>
- 20 中国軍網 20250405
http://www.81.cn/yw_208727/16379019.html
- 21 国防部網 20250418
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/yw_214049/16381487.html
- 22 外交部 20250415
https://www.fmprc.gov.cn/web/ziliao_674904/zt_674979/dnzt_674981/xjpdynmlxyjpxjgsfw/zxxx_142696/202504/t20250415_11594984.shtml
- 23 国防部網 20250411
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16379941.html>
- 24 国防部網 20250417
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16381271.html>
- 25 中国軍網 20250418
http://www.81.cn/yw_208727/16381373.html
- 26 新華網 20250501
<https://mil.huanqiu.com/article/4MUp2LEsMVS>
- 27 外交部 20250417
https://www.fmprc.gov.cn/web/ziliao_674904/zt_674979/dnzt_674981/xjpdynmlxyjpxjgsfw/zxxx_142696/202504/t20250417_11595807.shtml
- 28 外交部 20250421
https://www.fmprc.gov.cn/web/wjbzhd/202504/t20250421_11599230.shtml
- 29 中国軍網 20250422
http://www.81.cn/yw_208727/16382133.html
- 30 央視新聞 20250403
<https://military.cctv.com/2025/04/03/ARTIMbEfi37Z3Tcw8HpMbC4r250403.shtml>
- 31 国防網 20250408
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16379495.html>
- 32 国防部網 20250409
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/jswj/16379946.html>
- 33 国防部網 20250420
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16381700.html>

中国軍事動向月報 2025年4月

2025年5月12日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-1
平河町ビル5階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。